昭和十四年五月十五日發行　THE TATSUOKAJIHO　（毎月一回發行）　（一）

竜丘時報

長野縣下伊那郡竜丘村大字時又三七
編輯兼發行印刷人　沖田一郎
長野縣飯田市大字飯田六七六
印刷所　信濃產業新報社
發行所　竜丘青年會
代表者　下平三郎

昭和十四年臨時國勢調査

愈々八月一日實施せらる!!

今回行はれる臨時國勢調査は世界に於て其の例を見ざる劃期的事業にして、重大時局に直面せる我國のなさねばならぬ止むに止まれぬ調査であります。該當者はこれが完全なる結果を得られる樣格段の御協力を願度調査に關する法律を左に掲げ豫め御願ひする次第であります。

勅令第二百九號（拔萃）
昭和十四年臨時國勢調査施行令

第一條　昭和十四年八月一日現在ニヨリ臨時國勢調査ヲ行フ

第二條　調査ハ前條ノ時期ニ於テ帝國版圖內ニ現在シ左ノ各號ノ一ニ該當スル經營體ニ付之ヲ行フ但シ陸海軍ノ部隊及艦隊ニ屬スルモノニ付テハ調査ヲ行ハズ

一、物品販賣業ヲ營ムモノ
二、物品賣買ノ仲介業ヲ營ムモノ
三、法人、組合其他ニシテ物品ノ販賣又ハ賣買ノ仲介ヲ爲スモノ
四、旅館、料理店、飲食店其他之ニ準ズベキモノ
五、常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場、常時廿人以上ノ寄宿人ヲ收容スル寄宿舍ハ之ニ準ズベキモノ、病院又ハ船舶
六、農業又ハ飲食料品製造業ヲ營ム經營體ニシテ市町村長ノ指定スルモノ
七、物品販賣業ヲ營ム經營體ニシテ市町村長ノ指定スルモノ
八、建築業ヲ營ム經營體ニシテ市町村長ノ指定スルモノ

第三十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁固又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一、調査ノ職務ノ執行ニ因リ知得タル個人、法人若ハ組合又ハ其ノ業務ニ關スル事項ヲ故ナク他人ニ漏洩シタル者
二、調査ニ際シ之ヲ忌避シ申告ヲ爲サズ又ハ不實ノ申告ヲ爲シタル者
三、申告義務者ヲシテ申告ヲ爲スコトヲ得ザラシメタル者
四、虛僞ノ風說ヲ流布シ又ハ僞計若ハ威力ヲ用ヒテ調査ヲ妨ゲタル者

以上の如く今回の調査は人口調査にあらずして專ら消費調査を行ふものにして調査が完全に遂行し得ると得ざるは國家の消長盛衰に大きな關係を持つものでありますからその点を篤と御了解の上不日調査員參上調査の節はありのまゝを申告下さる樣尙調査は仲々複雜でありまして御面倒な事と存じますが事『國家の興廢この申告書にあり』何分の御協力を重ねてお願申上ます。

一念貫徹

更生貯金ご丑の刻祈願

牧島ぬい女の美談

四月十七日午後一時から花の城陸公園に駄科下平婦人會員百餘名出席牧島ぬい女の更生貯金完了感謝會が開かれた。ぬい女は昭和十年二月感ずる所あつて下平全婦人の宅を巡說して五ケ年據置婦人更生貯金組合をつくり爾來五十回（老齡婦人の身を以て炎暑嚴寒の候、風雪霜雨の日一回たりとも之を他人に委ねたることなく毎月八十餘戶を集金し本年二月之を完了し各戶に分配した。婦人貯金思想を涵養した

る其の功績實に多大にして當日竜丘信用組合長から光榮ある表彰を受けた。其の際會から記念品と共に贈られた金弐拾圓は直ちに陸軍恤兵部と本村銃後々援會へ寄附された。又ぬい女は支那事變勃發するや村社諏訪社に丑の刻（午前二時）百回參拜本村出征軍人の武運長久を祈願して無事結了し村民一同を感激せしめた。全女は本年七十六歳老いて益々壯んに憂鑠として壯者を凌ぐの元氣に滿ち〳〵てゐる。

硬化病豫防驅除法

竜丘組合原料部　鈴木技手

本病の病原は白彊菌又は綠彊菌と稱する菌類の胞子が蠶体に付着し濕氣の多い場合に發芽して蠶体內に寄生するに因つて發病するのである。

本病は前記の如く皮膚傳染をなす故傳染を助くる誘因即ち蠶室の多濕を防がねばならぬが一般に注意すべき事項は次の通りである。

一、蠶室の排氣裝置を完全にする事

硬化病菌の發育上最も關係するのは濕氣であるから蠶室蠶座の乾燥を圖る事が本病豫防の根本である。一般の狀態を見ても排氣裝置の不完全が或は陰鬱なる蠶室に發生するのが多いから蠶室の構造を改造する事が肝要である。

イ、屋上に氣拔を設け天井には氣拔を設け長さ四ー五尺の氣拔筒を作る事。

ロ、陽氣の射入不充分で薄暗ひ室は可及的室を明るくなす樣する事。

ハ、土地濕潤なる所は排水路を設けて土地の乾燥を計ること。

二、火力を使用し排濕換氣を計ること。

稚蠶なれば七十六、七度壯蠶ならば七十一、二度に保温すること。壯蠶は殊に室廣大となり低温多濕となり易き故に特に排濕に注意せねばならぬ。

火力使用の外は完全なる排濕は出來難いことを忘れてはならぬ。

三、給桑に注意せよ

給桑量が過多で常に殘桑の出來る場合は本病の發生を見易いから注意が必要である。給桑は中食期迄は殘桑の餘り出來ぬ樣給桑し盛食期には充分に飽食せしめれば却て蠶は健全に育ち桑不足に陷る心配はない。

殊に稚蠶（本年は特に）全葉全芽を思う儘用ひる場合等は特に此の点に注意せねばならぬ。

四、眠期の注意

眠起不齊の場合何時迄も遲眠蠶の爲めに給桑して居るのは蠶座を濕潤ならしめ從つて硬化病の發生を促進する場合多し。されば必ず上取りをなす事を忘れてはならぬ。

五、蠶座の乾燥を圖れ

イ、除沙を努めて行ふ事。

ロ、乾燥材料を使用する事

稚蠶なれば燒糠、壯蠶なれば切ワラ等を撒布し蠶座は常に淸潔乾燥を圖る事。

六、濡れ桑の給與は避けよ

濡桑の給與は硬化病菌の發育に最も好條件ならば之が給桑は絕對に避けねばならぬ。萬一避く可からざる場合は焚火をなし切ワラ等を撒布し除沙を可及的多くする事。

七、以上要約すれば

硬化病の豫防法は蠶室蠶具を乾燥させる事が重要事項であり桑不足させぬ程度で常に乾燥を圖る可きである

八、病原地、病原の殺菌的處理をなせ病蠶の發生せる蠶淸、廢族、本病蠶屍体等には多數胞子が存在して居るから之を其の儘桑園に搬入するが如きは絕對に注意せねばならぬ之等病原菌の存在するものは完熟堆肥として後肥料とするか燒却して病菌の撲滅を行はなければ如何は蠶室蠶具を消毒致しても再び附着傳染する故に特に本病特有の色にある病蠶は燒却するか石灰水中に投入すべきである。

蠶体消毒法

蠶体消毒とは消毒藥を以つて蠶体に附着せる本病胞子を殺滅する方法にして豫防法としては飼育に注意せるは勿論なれども眠中に多發するとか食桑中に斃蠶を多發する如き場合本法を行ふ時はその蔓延を防止致し得るものである。

先ず奬め得る蠶体消毒法としては

イ、蠶兒硬化病防止力による法

ロ、フオルマリンによる法

一、蠶兒硬化病防止劑による場合

イ、本劑は稚蠶期極めて多濕なる時（特に箔飼ひ）に効果顯著なる樣工夫せるものにして蠶兒には無害なるものなり。

ロ、本劑は本病發生前稚蠶期に於て毎日一回乃至二日に一回位撒布する事によりて本病の豫防をなし得るものである。

ハ、硬化病の既に發生せる場合には本劑を當日二、三回續けて撒布し爾後毎日一回宛撒布すれば硬化病の發生を豫防致し得るものである。

二、その使用方法としては給桑前極めて細目の篩又は洗ひ晒らしの晒布等にて薄く均等に行き渡る樣に撒布する。本劑は蠶体面全面に行き亘らねば効果はなきも本劑一回一箔に對する使用量は箔一枚（尺坪五坪半に對して約三匁位の撒布量が適當なるも厚くとも蠶兒が匐ひ上り得る場合は何等の害はなきものである。

ホ、本劑を撒布せる後は桑葉の萎凋早き故に桑不足せざる樣給桑に注意せる事。

二、フオルマリンによる場合

大体の蠶体消毒も本劑による場合既に周知の事ではあるが次に其の大体を記さば

①、濃度及撒布量

濃度一％液（原液三十五％）のもの蠶籠一籠に對して六、七勺內外にして蠶体上下全部潤ふ程度に撒布する事。

②、撒布の方法

撒布は日中行ふもので給桑一時間位前大半食桑を終りたるものに籾糠、切ワラ等を殘桑の見へぬ程度に撒布し、戶障子を開放なし一籠宛別室に於て（廊下）順次撒布し網をかけて給與し直に除沙を行ふものである。撒布は各齡一、二回位行ふものである。

③、撒布の時期

蠶兒に撒布して最も効果のあるのは起除沙後直に行ふ事にして眠中には行はぬが良い。盛食期に行ふ時は其の取扱に迅速を要し桑不足せしめぬ樣に中食期迄に行ふを原則とするを安全とする。

双刄劍

◎春蠶戰愈々始まつた
しつかりやろう產業報國だ
あたる蠶作は勞力にあり

◎幸先よし糸價千三百圓!!
昭和四年來の高價とか
だが繭の出廻期にはなんとくるか

◎案じていればきりがない
なんでもかんでも
大當りに取らなければ話にならん

◎鍬に桑、一鍬、一桑に誠心こめて勵もうぜ
米と蠶が當らにや命の親の親だもの

◎鈴木さんは飼育の注意

島岡さんは苗代の注意と必死の布陣、益々力闘願いますよ、丘の爲めに

◎八月一日臨時國勢調査の實施、村民各位よ趣旨をよく理解して好成績を上げ得る樣にやりましよう。

◎農村に課せられし生產擴充の重大使命を背負つて當村でも部落指導員の設置を觀た
囑託せられし諸君よ
大いに活躍せん事を望む
若人の意氣と力で

◎第二補充も漸く一人前の兵隊、第一回の訓練も好結果に終りいつでもお召あれと大張切り

◎事業〳〵で追われた若い衆も今日じやあ中々家業で御多忙、眞劍にやらうお互に

春蠶戰

スローガン

大業達成は銃後の產業から
汗と努力合せて進めば違蠶なし
努力一貫繭千貫

農會便り

稻熱代の管理上の注意に就て

島岡

本年は各位が長期交戰に對する銃後の自覺の現れか、昨年の被害に鑑み又其當時の苦痛を繰返さざるの觀念の下に特に苗代に重點を置きたる結果昨年に比較して發芽狀態は現在の所は良好である。尙又二毛作專用苗代の設置が一般の理解の下に多數實現したるは實に本村の如き郡下で屈指の二毛作地帶として米作改善の一大根源の發露と喜びに堪ない。然乍一般苗代を巡廻して見ると青海泥の發生並に腐敗病の發生又床面剝離多く、尙又深水に過ぎる感あり。各組合は左記に依り大至急之が防除の計劃樹立協同にて實施なす樣努めること。又深水に過ぎる者は苗一寸以上になりたれば（特に摺込みたるもの）毎日日中夜間を問はず雨天を除く外必ず淺水となし根の發育促進强苗育成に努めること。

苗一寸以上伸長しているものに對してはカゼイン石灰加用四斗式過石灰ボルドウ液坪當四合撒布のこと。調合量は水四斗に對し硫酸銅一二〇匁、生石灰二四〇匁、カゼイン石灰四〇匁、苗一寸以内並に青海泥、床面剝離等に對しては六斗式過石灰ボルドウ液坪當五合撒布のこと。調合量は水六斗に對し硫酸銅一二〇匁、生石灰二四〇匁、前記を必ず實行なすこと。

『附』現在苗代巡廻を實施している。苗代には必ず組合名を記入せる標札を立てること

部落指導員の設置に就いて

島岡

支那事變發生以來茲に一年有余現下の國際情勢に鑑みるに我國の戰時体制は事變の終熄を以て解消すべくも非ず、其確立の要愈々急を告ぐるものあり。即ち國防能力の擴充を樞軸とする社會經濟の全面的轉向に基き農業經營の基調に變化を招來し、農業生產の困難を增大しつゝあるにも拘ず其生產力擴充の要請は愈々喫緊の課題たり。而して此困難なる事情下にありて之が生產力の發展を期せんには機構の合理的改革と部落團体の活動促進を圖らざるべからず。此秋に當り農會は愈々其の重責を深く省察し協力一致新事態に即應すべく組合を擴大强化し農業生產の確立並農家生活の安定につき萬全を期せんがため、昭和十四年度より縣の施設と相俟つて本村にも縣農會囑託部落指導員を設置し絶へず農家諸團体との連絡を密にし部落の實態に即する農業經營及技術の改善農政知識の向上に努め益々農村の進展を圖り以て國力の充實を期することゝなりたり。左記部落指導員諸君の努力を煩すと同時に一般各位の御協力を乞ふ。

下平美喜　前島正三
下平住男　木下源吾
田中啓一　森山　昇
下平欽一　牧島茂實
牧島　豊　中島　章
今村　恒

昭和十三年下伊那郡農會主催第二回合理的二毛作競作會本村出品の成績に就て

島岡

昨年本村より三点出品したる所出品者の熱心と努力によりて斷然他村を拔いて左記諸氏が左記成績を以て二等と三等に入賞したり。

『米麥をタント收穫するのも努力と研究と熱心だぜ、今年はミンナ協力してタント收穫するんだぜ』

二等入賞　下平　保
小麥反當子實總價格　四、三四
玄米子實反當總價格　一三、一四
合計反當總價格　三四、四四
三等入賞　原　俊治
小麥反當子實總價格　吉、四四
玄米子實反當總價格　一〇、二四
合計反當總價格　一〇、七四

慰問品募集

豫想以上の好成績
点數千百余個集まる

三月十五日を以つて行はれた本村内各家庭一品以上の慰問品募集に際しては豫想以上の好成績が上り、点數千百餘個の多數であつた。發送慰問袋數七十六ケにて今迄の慰問袋内容の倍以上の品物を入れて送る事ができた。銃後村民の赤誠の現として役場當局でも感謝してゐる。又彼の地に活躍される勇士各位も色々の慰問品に喜ろこび又感謝文に感激した事だろう。

なつかしかつた うれしかつた
銃後の皆樣の熱意に唯々感涙に咽ぶばかりと
★第一線の勇士より慰問の御禮便り★

謹啓時下春暖の候と相成りました村長殿始め村民皆々樣には益々御頑健にて長期建設下いよ／＼御發展御奮闘の事と遠察申上ます。

搖ぎなき銃後の守りに對しましては感謝に堪えません。

小兵其の後は長い間御無沙汰致してゐます。御蔭樣にて相變らず至極元氣旺盛中目下大黃河の線近き新任地〇〇城に首尾よく進出し附近の警備並に治安工作の任に服してゐます。何卒御安心下さい。

扨先日暫く振りにて後方連絡があり思も掛けなくも村民皆々樣の眞心籠つた御慰籌なる慰問品をありがたく戴きました。後方連絡の極めて不便な最前線の事故其の一品／＼の尊さ又格別でありました。戰友一同と喜んで頂戴いたしました。度々の御慰問品には恐縮致してゐます。

尙又時報鄕土新聞等を度々と御發送下さいまして何よりの慰問紙に感謝しつゝ拜讀いたしてゐます。鄕土の近況が一目瞭然詳細になる迄知る事が出來ましてこんな喜しい事はありません。謹んで陣中より御禮申上ます。

新支那建設下に當城も皇軍の再入城未だ日淺きも現今其の復興振りは目覺しき躍進です人口も一躍增加す傾向にあり街も一段と賑しくなります。皇軍宣撫官の活躍も實に偉大なるものです。

今日は陣中にて迎へる事二度の慶ぶべき天長節であります我隊に於ても隊長殿引卒の下に嚴に皇居遙拜が擧行されました。御稜威と國運の彌榮を只管お祈り致しました。

尙又祝品として野戰にふさはしい品々を戴き晝食にて戰友一同の手業により二ケ年振りにてオハギの御馳走を頂戴し心から此の佳節をお祝すると共に我々の感慨は更に新たなるものがあります。

勝つて兜の緒を締め益々相協力一致して奮闘を續け御聖旨に添ひ奉り尙銃後皆々樣の御期待と御熱誠なる御厚恩に酬ひ奉りたい決心です。

戰線の我々は張り切れるばかりの元氣と、そして旺盛なる攻擊精神を以つて頑張つてゐます。當地の氣候は昨今日中一時木蔭に身を寄せる位いの暑さとなり夏服も渡りましたアカシヤの花が其處此處に滿開です。壕の蛙も平和を物語りながら內地が偲ばれます。

遙かに村民皆々樣の御健勝を祈りつゝ右お禮旁々戰場の一端を述べまして愚筆を止めます。

敬具

昭和十四年四月三十日
北支那河南〇〇
陣營にて
金子虎一拜
村民御一同樣

謹啓　時下春暖の候と成りました。

皆々樣には御變りも御座居ませんか、降りて小兵もお蔭樣に相變らずの元氣にて軍務に精勵致して居ります故乍他事御安心下さい。

何時も／＼御無音勝に打ち過ぎ誠に申譯も御座居ません。

戰地に於て活躍するのは我々の最も重大な精務でありますが、銃後の皆々樣には何時も御世話樣になる許りで日々感謝に堪へません。又先日は御手厚き御慰問品に接し只々感謝あるのみにて戰友と共に悅んで頂きました。

茲に紙上を以て厚く御禮申上げます。早速御禮をと思ひましたが丁度折り惡しく都合付かず今日迄延引致しました事惡からず御承諒下さい。

初夏の風と共に空高く舞ひ昇る五色旗も見るからに全支の平和を物語り、大なる希望に燃えんとして居ります。大陸の初夏平和になりつゝある大陸、まだ／＼我々の重責を痛感し層一層の努力と献身的御奉公が必要と存じ粉骨碎身、國家のため奮闘せん事を誓つて居ります。

こうして無事に軍務に精勵出來得る事は皆銃後にある皆々樣の日頃の御後援に外ならないと心に深く喜こび溢れてゐる者であります。

時節柄皆々樣充分御身体大切になさいます樣遠き北支の一端より御祈りする次第であります。

先づは取敢へず亂筆にて御禮迄に止めさせて頂きます。

四月廿六日
小林　利三
村民各位樣

拜啓　御慰籌なる御慰問狀を拜し旺盛なる銃後々援の熱意の程も身にしみて有難く我等戰線に立つ者大いに意を强うして居ります。

前線より凱歌を揚げて陣中に歸り來れば思いがけなき御慰問狀に添へ結構なる御慰問袋身に余る有難き温き御言葉其身戰線にあるも打忘れ暫らく感涙に咽びました。

此の上は熱き銃後の御後援を肝に銘じて忘れず一死報國以つて東亞樂土建設の人柱となる覺悟です。慰問袋を手に飛上り子供の樣に喜ろこぶ姿を一目お目にかけたいです。

時々の小學生よりいただくたど／＼しい片假名の慰問文は息をもつかず、荒武者も思はず聲を上て自然に泣かされてきます。

熱烈な銃後の意氣の籠れる慰問狀、これさへ肌身離さずつけて居れば敵の彈丸も避けて通る事でしよう。

長期抗戰は元より覺悟の上です。就寢前の僅かな時間を割つて亂筆を執つています。晝の疲れで戰友達は今靜かな夢路をたどつて居ます。

外は十三夜の月が大陸特有の蒼白い光を地上に投げかけています。

敵敗殘兵の惡戲か時折思い出した樣に銃の音が聞へてきます。（下略）

先は亂筆にて御慰問狀御慰問袋の御禮迄。

早や春靄の仕度で御多忙の事と思います。どうか村民皆々樣には御自愛專一銃後の護へ御精進下さる樣合せて遠地より御願申上る次第であります

敬白
北支より
關島　壽春
村民御一同樣

クリーニングの取次を始めました
春の衣類は是非
銃後の店……
大見クリーニング店

毎度有難度う御座居ます
御時計の修繕と
セトモノ類の御用は
是非勉强の當店へ
宮澤時計店

豐蠶の源、活力は
先づ菓子から
良品が安いと好評の
若木屋菓子店

海軍記念日の正午
國民總默禱

來る廿七日には事變二度目の第卅四回海軍記念日を迎へることゝなり海軍では國民精神作興と海軍に對する一般の認識を深めしめて事變遂行と東亞新秩序建設の意義を一層徹底せしむることゝなり全國にポスター、パンフレットを配布廿七日の記念日を中心として講演會、展覽會、舟挺競爭などにぎやかな諸行事を施行して全國民の熱誠に訴へることゝなつた。

五月廿七日　正午日露戰役ほか各戰役事變犧牲者追悼戰勝祈願の一分間の默禱をラヂオを通じて全國一齊に行ふ。

△同日　全國各地海軍墓地の淸掃と代表者の參拜を行ひ海軍病院療養所の傷病兵慰問派遣講演官による全國官公立學校の講演會、鎭守府關係遺家族の慰問集會開催などを行ふ。

組合便り

×

五月三日午後一時養蠶講話會左記開催、會場組合事務所

分離白一號×支一〇七號
改良鐘白×改良新白

飼育に對する注意

蠶試飯田支場熊谷恒次氏

稚蠶用桑の作り方と改良鐘木取法並に實習について

蠶試飯田支場登玉重吾氏

×

五月三日政府割當綿製品第二回分各實行組合別に配給種類、ネル地、タオル裏地、久留米絣、其の他

×

五月八日生糸組合役員會開催決算配分金に關する件其の他協議

×

五月十四日本縣產業組合課係員來村、生糸組合決算指導につき經營狀況調査

×

五月廿日年度末決算配分開始總額四萬三千餘圓供繭者一戸當り約壹百圓配分率別記の通り

竜丘組合決算配分金額

季別	品種別	掛目	配分額	平均糸量	一〆目對金額
春	白	四三掛	一七四、三六四〇〇	一一×一〇七	六四〇三
〃	黃	四〇	八四、八〇	四、〇四	四、七三
夏	二一×改中×改安	四四	二九、四一、三〇	一、八四	五、九八
〃	一一×改中×改安	四三	八、三四、一三	一、三、六一	五、〇九
秋	一一×改中×改安	四六	四九、三九、八三	一、八五	五、〇九
〃	一一×改中×改安	四五	六、三七、一五三	一、三、一三	六、〇二
〃	一一×改中×改安	四五	一、八五一、五六	一、七二	五、二七
計			三六、三三〇四一五	一、一三	四、七八

原料奬勵金右の外四千八百圓（間接配分金）

×

農蠶用品、ホルマリン、蠶座紙、硫黃合劑、木炭、煉炭、火鉢、苗代消毒用ボルドウ液原料藥品等の配給で連日購買部大繁忙。

×

最近ニュース

補充兵合宿訓練行はる

四日廿日より二泊三日間に亘りて第六聯合班補充兵の合宿訓練を竜丘小學校に於て行はる、折惡く春雨に見舞れしが一同元氣よく好成績にて終了せり。

女子青禮儀作法講習會

四月廿日より三日間小學校記念館に於て、伊賀良村中村の近藤氏、桐林の中田氏に就いて禮儀作法を講習なす。

男女青年會慰問文發送

男女青年會教育部合同の下に出征、現役兵各位へ五月五日慰問文の發送をなした。

入山村有林大火

五月五日、六日の兩日に亘り村有林入山山火事あり。たゞちに警防團出動し地元伊賀良の警防團の援助を得て消火なした。損害其他今だ不明

種痘實施

五月十一日、十三日の兩日に亘り役場に於て一期、二期の種痘が行われた。

尋常六年の修學旅行

尋常六年生の修學旅行は五月十二日三信鐵道にて關西方面へ二泊三日間の日定にて行はる、引率者は三組受持先生に木下校長、松村の五先生出發の日雨天であつたのは誠に氣の毒。

「驛は微笑む……」
昨年より千二百圓增の賣上・時又驛
花月の

一夕時又驛を尋ねて驛より見た四月の景氣を一寸尋ねれば驛長さんにや〳〵と「昨年よりは千餘圓增の賣上にはいさゝか驚ろいた糸價高の影響と今年は天候の良かつたのが相當な影響だらう」とはお言葉通り、皮憎やの中嶋さん「こう乘られちや伊那電がモーカリ過ぎてこまるわい」と輕い冗談。

四月中時又驛乘降客調査

社線旅客乘車	三三、四一五人	
〃　運賃	一、五三九円六〇錢	
連帶旅客乘車	五三九人	
〃　運賃	九六四円〇〇錢	
社　降車	三三、二六六人	
連　降車	五四一人	
計		
乘車	三三、九三六人（連社）	
降車	三三、八三七人（共）	
運賃合計	二、七八八円八一錢	
昨年四月の運賃合計	一六、五四〇円〇〇錢	

時又町商工會の定休日は
毎月二十日と決定

時又商工會では昨年商店法實施されると同時に販賣物品定價表、午後十時閉店は實施されていたが月一回の定休日を定めることが遲れていた處四月五日役員會に於て毎月廿日をなして定休日と定め四月の廿日第一回の定休日が行わる、尙休日は一切商品販賣せぬ由である。

献金

長期建設下にある銃後を護る村民の覺悟は益々充實化し各所に於て涙ぐましき美擧がある。第二國民の雄々しき献金に亦美談の持主の婦人より尊い献金ありて、その美行の主を揭れば次の如く此の快擧に齊しく襟を正さざるを得ない

國防献金

一、金拾圓　駄科　牧島ぬい
一、金壹圓四錢

時又驛前少年團

一、金二圓　久保田少年團

村銃後々援會へ

一、金拾圓　駄科　牧島ぬい

兎を賣つて國婦へ寄附金

駄科關島きんよさんは家業多忙の中でよく數頭の兎を飼育し之を賣つて金五圓也を代田婦人會長の許に持參し會の事業費に使つて下さいと寄附された。

圖書館だより

○農繁期開館案內

五月　廿日　夜間
六月　卅日　夜間
七月　一日（農休）午前中
〃　十日　夜間
〃　十五日（祇園）午前中
八月十六日（盆休）午前中
〃　廿日　夜間
九月廿五日　夜間
〃　卅日　夜間

農蠶期となり愈々多忙の秋となりました。村立圖書館を此の期間開館日を減少しては居りますが村民各位の多數御利用下さる事を切望致してやみません。（熊谷）

おわび

今月は五月十日付をもつて養蠶特輯號を發行致す豫定でありましたところ原稿、其他當部の部合で發行出來得なかつた事は村民皆樣に申譯無く紙上より深くおわび申上ます。

又生產の鈴木さんの寄稿下されし重要な原稿に對しても同樣御詫びする次第です。この記事わ紙上へのせてありますから今後の蠶作への注意と知識として下されば我等編輯子一同感謝にたへません。

御承知の通り六月號發行時報は多忙期に就き休刊致しますから七、八月發行時報へ對して御投稿下さる樣合せて御願申ます。（編纂部員一同）

家庭メモ

お洗濯には雨水が一番

早く汚れが落ち濯ぎが樂くで石鹼も經濟

お洗濯は御飯炊きと同じやうに殆ど毎日繰りかへしてゐるのですがそれにもかゝわらず時々やり損ひのあるのは朝夕の御飯の炊き方が硬すぎたり軟かすぎたりする場合が少くないのと同じです。殊に最近のやうに新しい纖維の出て來る時は一層むづかしいものでかうした場合まづ纖維の一番弱いものを標準にするとまづ間違ひありません。

水は軟質のものに限りますがこの点では雨水が大變結構です。濯ぎが樂くで汚れが早く落ち、石鹼も少量で濟みます雨が降り續いた時には桶なりバケツなりに受けて置いてそれをお洗濯に使用するのが賢明です。

便所のくさみとめ

雨が降つた時等はとくに便所がにほひますがくさみとめには木灰をふりかけるのが一番だと思ひます。藥でとめるのは肥にならなくなるそうです

中島

大藤!! 長藤
滿開になりました
是非一度御來園を
お茶・お酒　其他なんでもあります
桐林仙樂園

初夏青葉の候……春蠶全盛期
お茶うけに、御休息に、先づ菓子を
勉強の
藤屋菓子店

洋品
胖物
足袋
類の御用は
勉強の當店へ
田中屋洋品店

特製かしわ餅
みたらしだんご
時又町
港餅店

肉食は健康の母
養蠶時になりました、銃後の御家庭は肉食によつて第一健康な身体を作つて下さい
優良
牛肉　馬肉
豚肉　鳥肉　から
細井亭精肉店
電話廿四番

銃後の御家庭は
正確な御時計から
御時計の修繕は是非當店へ
伊藤時計店

うまくて安い當店の
かしわ餅　万十
御茶受けに
奴餅（玉屋號）

〝春蠶飼育に對し各蠶品種の特性を生かせ〟

龍西館原料部

聖德太子養蠶訓

蠶を養ふは父母の赤子を看るが如し
蠶を見る事常に我が子を思ふが如くせよ
寒暖陽氣の加減は平生我が身に做ひ
冷ならず、温ならず、晝夜間斷なく
精力を盡すべし

愈々本年も春蠶掃立も終り糸價高の幸先き良き蠶戦に乘り出す事になつた。

此の時に昨年の掃立量と本年とを比較するに昨年は四万三千百八拾瓦なるに對し本年は四万二千四百參拾六瓦にして一、四四%減なり。

されど昨年の如く日一一一號×支一〇七號と其他數品種の混合飼育されたる年を思ふ時本年は蠶品種的に優れて居り飼育品種も統一された樣子からみて蠶作昨年位であるならば遙かに增收致し得る見込である。

本年の掃立量を品種別に見る時は

蠶品種名	掃立豫想瓦	仝上歩合
日一一一×支一〇七	二三、九二六	五六%三八
分白×支一〇七	一五、一四〇	三五、六七
支十七×支一〇七	一、〇五〇	二、四五
鐘白×改新	二、三二〇	五、五〇
合計	四二、四三六（五月一日豫想）	

といふ樣に品種的に統制されたる結果現業に於ても作業上誠に結構なる傾向であると云ふ事になつてゐる。本年の原料そのものは品種的に漸く他村の組合と同樣になつて來た譯であり、眞實に他村との比較上又養蠶家自体の原料改善に對する熱意の程度も知り得る譯である。

殊に嘗ては天下三大桑園を誇りし村として昨春の平均瓦當りは六七八匁にして過去三ケ年の平均數字は六四五匁を示して居る。故に本年の如く一二化系のもの多き時は收繭量は大した相違なきと致しても養蠶終局の目的物たる糸は隨分なる增收になるものと今より期待致し養蠶家諸彦の御努力を願ふ次第である。

數字的の觀方はさて置き何れの品種轉換期にも繰返して來た新飼育品種と違作との關係を見る時に常に思ふ事は新飼育品種を舊品種の如き取扱ひをする事によりて違作する場合多し。されば次に掲ぐる諸点を良く含味された上飽く迄品種的の飼育をなす事を希望する譯である。

蠶品種の特性

一、國蠶日一一一號×國蠶支一〇七號
一、陰鬱性品種
二、陽氣に對して敏感性（ヒステリー性）
適温適濕保持をなす事
三、持病は空頭性軟化病（アタマスキ）
四、桑葉下の食桑習性（寢食ひ好き）
桑葉は細刻少量多回給桑方針により飽食を圖る
五、低温時に於ける這ひ上り特に不良（引込み思案）
朝の低温時補温、給桑前三〇分間除覆、一日一―二回燒糠撒布實行
六、葉質の選擇及貯桑吟味（スキ（好）嫌いの多い食物に贅澤な蠶）
良質桑葉を選び萎凋せざるやう貯桑に注意
七、發育度大（早熟性）
特に稚蠶期の發育旺盛（高温時に一層顯著）故薄飼の實行
八、桑不足即ち食ひ不足による就眠或はバカスガキ警戒
責桑を充分にやる
九、三眠蠶發生に注意
低温催青、卵の抑制、稚蠶期の低温及軟葉飼育を避ける
十、下層營繭性（下づくり）
紙付、板付、簇付汚れ繭多發
厚上げ上簇時の低温に注意
二、分離白一號×支一〇七號（糸質特によく比較的糸目多き上品向種類）
改良鐘白×改良新白（糸量特に多く比較的糸質よき優良品種）
一、明朗性品種
二、陽氣に對して相當敏感性（稚蠶の冷濕、壯蠶の蒸熱大嫌い）
一、二化交雜種故適温適濕に努め繭質の向上を圖る
三、持病は食い逃の六日目病
四、貧食性（特に五齡起より桑食ひ活潑）
一回量の增加より寧ろ回數增加により飽食を圖る
五、比較的出シャバリ者
食桑活潑、這ひ上り良好なるも低温時の補温、給桑前の除覆燒糠撒布の實行
六、食物の贅澤な蠶（葉質吟味）
七、壯蠶期の軟葉大嫌ひ
充實せる用桑を選擇するは勿論夜間低温時軟葉給與の止むなき場合は量を加減し多濕を避く
八、蠶体肥大率大
發育旺盛なる故薄飼の實行により飽食を圖る
九、改良鐘白×改良新白は分離白一號×國蠶支一〇七號より經過が長い（特に五齡にて半日乃至一日長い）
十、上簇食の保護取扱ひに特別の注意肝要
温濕度の調節換氣に留意
三、國蠶支十七號×同支一〇六號（支一〇七號）
一、繭重輕く收繭量も多くないが繭糸質特に纖度良好な上品向品種
二、蟲質は餘り丈夫でない
三、經過比較的短く日一一一號×支一〇七號と大差ない（五齡が割合に短い）
四、食桑活潑、眠起齊一
五、中食期より直ちに盛食期に入る故擴座分箔に注意し厚飼を避け多回給桑をなす（良質桑の給與に努む）
六、冷濕並に高温多濕警戒
七、支那二化母体は卵數一割多い
何れにもせよ稚蠶は健蠶本位に飼育し壯蠶は蠶品種の特性を生かした飼育をなす樣願ひたき次第である。一五、五、一三

陣中近信

小林誠氏

拜啓　御無沙汰に打過ぎ御赦し被下度候　南昌攻略戰を了しそのまゝ直ちに引き返し只今漢口着、明後朝は再び列車輸送を以て北上〇〇の戰鬪參加との命令の所へ内地よりの手紙その他が到着、軍裝解くももどかしく三ケ月振りにて手にする内地よりの便りヤア〳〵と誰も彼もせまき宿舍内は大騒ぎに御座候　中に一通皆樣よりの御日待の後の寄せ書今更郷里の光景皆樣の御樣子が目に見ゆるばかり懐しき限りに御座候　省みれば一昨秋の京漢戰線より昨年は二月より四月迄山西戰そのまゝ引續き隴海線遮斷と第二回目の山西戰に八月迄續いて津浦線を南下漢口攻略戰に參加、その後暫らく大別山脈の西にて警備致し居り候ひしが去る二月四日行動開始〇〇部隊に屬して南昌作戰に參加、遠く南方を迂廻し三月廿七日夕遂に之を陷れ歸り來りし所に御座候、戰地とは云へ時には云ふに云はれぬ樂しき生活もあり又何れの戰鬪にも甲乙はなき樣なれ共この度は作戰行動中の過半數が雨天にて沼澤と河と山路と支那軍必死の物凄き防備の間これを越えて戰ひ勝ち生きて歸りし事今や感慨深く御座候、歸途修水河に出づれば水邊くまなきロクサイ鐵條網、塹壕、トーチカの間に河上よりの友軍の死体が幾つか引き上げられ居り候が之は先夜の渡河戰に我等より河上を渡りし〇部隊及び〇〇部隊の兵にて先の闇夜雨中の凄慘なる渡河戰が思ひ出され候連日の雨に道は散々に破れ私共は砲も彈藥も車輛を止めて駄載と致し候が今や馬いたむも支那馬さへ補給續かず多數の水牛が之に參加致し候。

時には夜中塹壕の中に睡眠中友軍〇〇の逆流に逢ひ闇中〇〇〇をさがし求める者或は木に登るもの等散々なりし事もあり或は雨中終日の强行軍のはて彼我機銃聲盛なる敵前二籾の山蔭に着、豪雨の中に露營し全身濡れ冷込み（中暑）然れ共今や我等が第一線に立つは特別非常なる事には非ずして只最もありふれた義務の一つに過ぎずと思考仕居り候

支那軍も實に勇敢にてその戰死者の如きに對しても時に敬意を禁じ得ざるものあり彼等は今や歸るに家なく鄉土なく蔣介石の所謂『今日の抗戰は建國永久の基礎を確立するにあり、今日の長期抗戰を經ずして建國自由の時機は穫得し得ず、各人が死を以て祖國の難におもむく事のみ今や殘されたる唯一の活路なり』といふを信じ戰ひ居るかに見え候戰の尙長期に涉るべく私共も仲々忙しく明後朝は急行北上に御座候支那は決して自分が内地にて考へたり聞いたり致し居りしか如きものにあらず文化に於て我々一歩遲れしとはいへ新興の姿は侮り難く山河雄大なる大陸に五千年の歴史を有する支那には或る厚みを感ぜしむるもの有之日本がこの支那を處理するは眞に大業に御座候

城壁の如きに大書『戰時に平常の精神を忘るゝ勿れ』とて民衆を指導しゐるも支那の一つの姿にや候はん。

××××

揚子江沿岸は今や新綠に蟬が鳴き内地の五月が思ひ出され候がこれも遠き幻にてはたして生きて再びこれに合し得るや、何れともせいぜい元氣にて國家の爲に務を果すべく期し居り候、御手紙により讓兄の事共をも思ひ出し候が同兄ありし日の同兄の中隊長及准尉もその後間もなく護國の華と散られ候（御宅へ中隊より詳しく手紙をかゝれし方に御座候）

番陽湖や千古の揚子江に移り行く時代の流れを觀じつつゝなつかしきまゝの駄文長綴御判讀を願上候、この手紙の着く頃は小生は戰鬪中御地は養蠶も始まり居る事と存じ候（中暑）

終りに皆々樣の御健勝を祈上候、御送り下さる小包干柿及梅干は多分この戰鬪後手に入る事と存じ有り難く御禮申上候

尙留守中は色々御世話樣に相成り篤く御禮申上候頓首

昭和十四年四月十八日

漢口にて

小林誠

長野原五、六番組御中

編■輯■後■記

初夏青葉の候、山峽の切崖に下つた藤の花亦つゝじ、暑くなく寒くなく働には一番良い時期だ。反面麥の一穗出ねむい時でもある。朝などは起るがつらい、愈々糸價千三百圓の出現で幸先よく春蠶戰が始まつた。銃后の重大使命である產業に幾分の勞力不足はなんのその勇士の分迄やるぞと意氣込んで前進〳〵。

臨時國勢調査も愈々八月一日を以つて全國一齊に施行せらるゝ運びとなつた。本村でもこの任に當つた岡村さんは大多忙、時局對策の重要資料としての本調査が良好に行われるのを切に祈る。

各方面より重要な原稿が山積部員一同唯に感激の外はありません。そして割當よくノセタ積りであります。

亦春蠶期、農繁期となつた。今日當時報のために寸暇を割いて御投稿下されし組合の鈴木技手、農會の島岡技手へは紙上より厚く御禮申上ます。

時報が年來益々發展する好條件として村民各位の情けある御援助と御寄稿とをお願ひしてやみません。

五、十二

戰ひはこれからだ
五月二十七日
◎理論より實行
第卅四回 海軍記念日
國を護つた傷兵護れ！
慰めよ護國の神の遺族の方を！
出征兵の家庭を護れ！